

令和7年度 矢渕中学校教育基本方針

1. 学校教育目標

『「支え合い・高め合い・学び合う」学校の創造』
～なかまとともに探究し、自己を高める生徒の育成～

追求すべき【学校像】【生徒像】【教師像】

	協 同	探 究	創 造
学校像	誰一人、独りにしない学校	卓越性を追求する学校	未来を拓く学びを創造する学校
生徒像	自他を大切に、協同できる生徒	なかまとともに協同しながら、自ら考えを深め、表現する生徒	自律的に判断し、よりよい未来を創造する生徒
教師像	想いをひとつに、学び合い、つながり合う教職員	質の高い学びの実現に向け、探究する教職員	よりよい教育を共創する教職員

2. 教育経営方針と目標

（１）一人残らず学びの権利を実現する。

- ① きめ細やかな指導を行い、基礎学力の定着と協同的で探究的な学びを実現する。
- ② 「質と平等の同時追求」によって、生徒の学びの質を高める。
- ③ 聴き合い・学び合う授業づくりに向け、授業を省察し、授業改善に努める。
- ④ 生徒の実情を把握し、主体的・能動的に取り組める教育環境を学校全体（チーム）で推進する。

（２）生徒一人ひとりの良さを認め合える教育活動を進める。

- ① 生徒の主体的で対話的な取り組みを大切にした活動を推進する。
- ② 互いを尊重・ケアし、共に存在を認め合い・支え合う子どもの育成に努める。
- ③ 生徒理解を深め、全教職員で関わる体制を構築する。
- ④ 子どもたちの豊かな心と健やかな身体を育成する。

（３）家庭や地域と連携・協働し、「地域とともに育つ学校づくり」をすすめる。

- ① 家庭・地域への情報発信や連携・協働した取組を積極的に行う。
- ② 保護者・地域・学校がともに「学びの主体者」として教育活動に参画する機会を設定する。
- ③ 学校運営協議会や育友会役員会において保護者・地域・学校が連携し、子どもたちの育成について熟議を進め、学校運営の改善に反映させる。

（４）「想い」（教育目標）を共有しチームで協働する学校運営体制を構築する。

- ① 教育機関と連携し、同僚性を発揮しながら学校運営に携わる「チーム矢渕」を構築する。
- ② 生徒の成長に教職員がやりがいを持ち、保護者とともに支援する運営体制を構築する。
- ③ 教職員が自分の健康に留意しながら、安心して働ける学校を構築する。

3. 教育経営方針に基づく具体的目標

(1) Aグループ 一人残らず学びの権利を実現する。

代表：萩野 1年：宮澤 2年：林 3年：西濱・室谷

①きめ細やかな指導を行い、基礎学力の定着と協同的で探究的な学びを実現する。

- ペアやグループでの学習を通して、協同的で探究的な学びを推進します。
- 「探究的な学び」を推進します。
探究的な学びとは、なかまや自身との対話や協同をとおして、学びや思考を深めていく学習活動のことです。
- 子ども一人ひとりが「わかる楽しさ」や「互いに高め合う楽しさ」を実感できる授業を目指します。
- 「ワークシート」「学Vivaセット」「eラーニング」を補充学習や家庭学習、長期休業期間等に活用します。
- ☆「矢渕中タイム（アゲイン）」を設定し、子どもたちの学びを保障する学習環境・学習機会を整備します。

②「質と平等の同時追求」によって、生徒の学びの質を高める。

- 魅力ある課題（教材）や学ぶ価値のある課題について研修し、生徒の学び質を高めます。〔課題と授業デザイン〕
- 生徒が表現する中身を問い直し（授業の省察）、生徒の能動性（意欲・認知・感情）から「協同と探究」による学びの検証をおこなう。

③聴き合い・学び合う授業づくりに向け、授業を省察し、授業改善に努める。

- 公開授業研究や学年研修、校内研修を通して、生徒の学びの様相から授業を省察し、授業改善に努めます。（1人1回は授業公開をおこなう）
- 全国学力学習状況調査やみえスタディチェックの結果分析をおこない、子どもたちにとって励みとなる教育活動を進めます。
- 他校の視察や授業研究会へ積極的に参加し、よりよい指導方法を学びます。
- 授業改善に向けて講師を招聘し、指導・助言を受けることで、教師としての専門性を高め、質の高い授業実践につなげます。

④生徒の実情を把握し、主体的・能動的に取り組める学習環境を学校全体で推進する。

- 定期テスト前5日間は、学習計画に基づく学習、担任との懇談、放課後の自主的な学習への取組を推進します。
- キャリア教育と関連した目的意識を高めるための学習や自学ノートの効果的な取組を検証し、推進します。
- 生活アンケートや毎日の心の健康観察チェックを行い、子どもの心の状況を最大限把握し家庭との連携に努めます。
- アンケートや教育相談を拡充し、個々の生徒の思いや背景をとらえ、生徒の実態や生徒への理解を深めます。
- 学校関係者アンケートを実施し、実態や要望等を把握するとともに、日頃の指導を振り返ることで「子どもたちのための授業」創りを進めます。

(2) Bグループ 生徒一人ひとりの良さを認め合える教育活動を進める。

代表：脇濱 1年：雑賀・ルガール 2年：綿谷・鈴木 3年：野地本・柴田

①生徒の主体的で対話的な取り組みを大切にした活動を推進する。

- 体育祭や文化祭、生徒会活動を通して、生徒たちの自治的な活動を積極的に推進します。
- 実践的行動力を育むため、「見守る姿勢」を大切にした教師の関わり方と指導を追求します。
- 保護者や地域と連携したさまざまな体験学習活動（地域に学ぶ、職場体験学習、平和学習等）を推進します。

②互いを尊重・ケアし、共に存在を認め合い・支え合う子どもの育成に努める。

- 「子どもたちの人権」を第一に考え、いのちを大切にする教育活動を推進します。
- 子どもたちが「人権」について考え・対話する場面を設定し、違いを認め合い、互いを尊重できる子どもの育成に努めます。
- 外部講師を招聘し「差別」や「偏見」「多様性」についての講演を開催し、子どもの視野を広げ、思考を深める取組を推進します。
- 道徳の授業を通して、子どもたちの人権感覚を育むとともに、教職員の指導力向上等につなげます。

③生徒理解を深め、全教職員でかかわる体制を構築する。

- 学級担任は毎日の「やりとり帳」をはじめ教育相談等を定期的に行い、生徒理解に努めると同時に、SC、教育支援相談員、校内教育支援センター、SSW等との日常的な連携を深めます。
- 学級担任との教育相談、全員カウンセリング、保護者との教育相談や家庭訪問、校区人権フォーラム等さまざまな機会をとらえて生徒理解を深めます。
- 職員間や地域・教育機関との丁寧な情報共有と連携をすすめ、生徒への理解を深めます。
- すべての教育活動のベースにケアリングを位置づけるとともに、「生徒の居場所」づくりに努めます。（居場所：空間・ひと・関係性）

④子どもたちの豊かな心と健やかな体を育成します。

- 「あいさつ」をする「そうじを一生懸命行う」「時間を守る」「なかまどうしつながりあう」ことを学校生活の中で常に意識し、子どもたちに投げかけます。
 - 部活動では国・県のガイドラインに沿って作成した「矢渕中学校部活動運営に関する指針」に則り、原則平日2時間、週休日3時間の活動とします。
 - また、勝利至上主義に陥ることなく、子どもたち一人ひとりが達成感を得られる場となるよう指導法の工夫に努めます。
- ☆部活動指導の向上につながる研修会や部活動指導先進校視察等を行います。

(3) Cグループ

家庭や地域と連携・協働し、「地域とともに育つ学校づくり」を進める。

代表：加藤

1年：西川・山本

2年：山中

3年：久保田

①家庭・地域への情報発信や連携・協働した取組を積極的に行う。

- 学校ホームページやマチコミ(タイムライン)を活用し積極的な情報発信を進めます。
- 学校・学年・学級だよりやブログ、保健通信などを積極的に発行します。
- 学校からの情報提供に対して、保護者や地域の方が質問や意見を述べられる機会や場面の設定に努めます。

②保護者・地域・学校がともに「学びの主体者」として教育活動に参画する機会を設定する。

- 体育祭や文化祭等の行事、公開授業研究など、保護者や地域の方に学校に来ていただける機会を設定します。
- 保護者や地域の方が、「学びの主体者」として教育活動に参画できる機会の設定に努めます。
- 家庭への連絡や家庭訪問及び保護者懇談会を開催し、子どもたちを中心に据えた、「想いの共有」に努めます。
- 地域で行われるさまざまな行事に、子どもたちが参加しやすい環境作りを進めます。

③学校運営協議会や育友会役員会において保護者・地域・学校が連携し、子どもたちの育成について熟議を進め、学校運営の改善に反映させる。

- 学校教育へ直接的に参加いただき、地域に根ざした特色ある教育活動を進めます。
- 学校アンケートや学校自己評価を実施し、年間を通しての取組改善に努め、年度末に関係者評価を実施し、次年度の学校改善につなげます。
- 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」のあり方を検討するとともに、更に充実させ、保護者や地域の方にも学校経営に参画していただく体制を構築します。

※各グループは①～③または④の方針に対して○☆の具体的な取組をおこないます。

☆は R7年度新たに追加・修正した取組(チャレンジ)です。

学校関係者アンケートに基づく「学校自己評価」および「学校関係者評価」を行い、今後の学校運営の改善に努めていきます。

(4) Dグループ

「想い」を共有しチームで協働する学校運営体制を構築する。

代表：野地本 1年：萩野 2年：脇濱 3年：加藤 岩本・谷本

①教育機関と連携し、同僚性を発揮しながら学校運営に携わる「チーム矢渕」を構築します。

- 保護者、地域、教育機関と連携し、活発な情報交換をおこない、課題を見極め、全教職員が一丸となって組織的かつスムーズな学校運営に取り組みます。
- 「報告・連絡・相談」(ほう・れん・そう)を確実に実行することで十分な共通理解を深め、「計画→実行→検証→改善(PDCA サイクル)」を重視した学校運営をすすめます。そのためには、各教職員が自ら指導を行っていく当事者として、意識を強く持ち、取り組むよう心掛けます。

②生徒の成長に教職員がやりがいをもち、保護者とともに支援する学校運営を構築する。

- 子どもたちの「よさ」を休憩時間に共有できる教職員集団を目指します。
- 学年主任会議(教務会)や各種委員会(生徒指導委員会・特別支援委員会、予算委員会・進路指導委員会、学校行事实行委員会・教科部会など)の積極的な活用により、スムーズな学校運営に取り組みます。

③教職員が自分の健康に留意しながら、安心して働ける学校を構築する。

- 紀宝町教育委員会から出された「教職員の在校等時間の上限等に関する方針」に則り、教職員集団が自らの働き方を工夫、探究、創造し、教職員自身が豊かな心と健康を保ち子どもたちに向き合えるよう、働き方改革を推進します。
- 働き方改革の推進により、一人で課題・問題を抱え込まない、高い同僚性の構築に努めます。
- 会議時間の短縮を目指し、資料等事前の配布や「週案」の取組を推進します。
- 週1回の定時退校日を水曜日に設定し、見通しを持った執務を心掛け実現します。
- 部活終了後、2時間以内を目標に退校するように努めます。
- 校内労働安全衛生委員会を年3回程度開催し、数値目標を掲げるとともに、「計画→実行→検証→改善(PDCA サイクル)」において改善を目指します。